

令和7年4月10日

輪島市洋上風力発電事業誘致検討協議会
会長 坂口 茂 様

日本野鳥の会石川
代表 白川 郁栄
〒920-0923 石川県金沢市桜町 7-33

公益財団法人 日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一 (公印省略)
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

**「輪島市洋上風力発電事業誘致検討協議会」が誘致を進める
浮体式洋上風力発電事業に対する要望書**

このたび、貴協議会が誘致を進めております輪島市沖での洋上風力発電事業（以下、本事業という）に対して、鳥類及び生物多様性の保全の見地から下記のとおり要望とその理由を述べますので、格別のご配慮をいただけますようお願いいたします。

記

洋上風力発電の導入拡大は、脱炭素社会の実現に貢献しつつエネルギー安定供給の確保に繋がるものであり、国策上も非常に重要です。一方で、2023年3月に閣議決定された生物多様性国家戦略 2023-2030 において、2050年の「カーボンニュートラル」と「自然と共生する社会」の2つの持続可能性のための目標は、相反させずに同時に達成することが必要であり、再生可能エネルギーの導入は自然環境と共生するものであることが大前提とされています。そのためには、再生可能エネルギー導入の計画段階において、生物多様性保全上重要な地域をあらかじめ特定するためのゾーニングまたはセンシティブティマップ作りを行い、鳥類へ影響が生じうる海域での洋上風力発電の誘致を避けるなど、必要な対策を講じることが重要となります。日本野鳥の会石川及び公益財団法人日本野鳥の会は予防原則の考え方に則り、本事業を進める際には、

- ・地域での鳥類の生息状況に詳しい専門家を協議会に招聘するなどして専門家ヒアリングを行うこと、
- ・貴協議会または輪島建設協同組合等が主体となって現地鳥類調査等を実施すること、
- ・鳥類を含む生物多様性の保全上重要な地域を特定したうえで、そのような場所を回避すること、
- ・生物多様性の保全上重要な地域を回避できない場合には、設置海域を再検討するか誘致を進めないこと、

など七ツ島および舳倉島周辺の生態系や生物多様性の保全と調和した計画としていただくことを強く求めます。

理 由

- (1) 本事業の候補対象海域となり得る七ツ島ではカンムリウミスズメの繁殖が確認されて

おり、七ツ島とその周辺海域は本種の重要な生息域となっています（石川県 2020）。本種はいしかわレッドデータブック 2020 動物編において絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種）に選定されているほか、環境省レッドリスト及び国際自然保護連合（IUCN）レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に選定されており、世界的にも保全の重要度・緊急度が高い海鳥です。本種の生息域は日本周辺に限定され、推定個体数が約5千羽、多くても約1万羽とされることから、ウミスズメの仲間では最も絶滅が心配されている種類です（参考ウェブサイト 日本野鳥の会「カンムリウミスズメってどんな鳥？」 https://www.wbsj.org/activity-/conservation/endangered-species/sw_hogo/about/）。中でも七ツ島は国内繁殖地の北限であるため（石川県 2020）、七ツ島及び周辺海域は本種の生息環境として、世界的にも極めて重要と考えられます。加えて、本種は国指定天然記念物にも指定されています。

- (2) カンムリウミスズメの他に、七ツ島で繁殖する海鳥であるオオミズナギドリとウミウは、いしかわレッドデータブック 2020 動物編において絶滅のおそれのある地域個体群に選定されています。これらの理由から七ツ島は希少な海鳥類の重要な生息地であると認められ、集団繁殖地として国指定鳥獣保護区となっています。
- (3) 七ツ島とともに、本事業の候補対象海域にある舢倉島は、日本列島を移動する渡り鳥の中継地として知られ、数多くの渡り鳥が通過する地域となっています（石川県 1998；石川県 2020）。2024 年時点において、日本国内では 645 種の野生鳥類が記録されているのに対し、舢倉島ではその半数以上に当たる 367 種が記録されています（日本鳥学会 2024 を元に集計）。よって舢倉島及びその周辺海域は鳥類の生息地・中継地・通過地として極めて重要です。
- (4) 沖合域にある洋上風力発電施設が鳥類に与える影響としては、採餌・休息環境の改変・喪失（生息地放棄）、分布や行動の変化（移動の障壁）、風車との衝突事故（バードストライク）の 3 つが挙げられ、これらの影響は繁殖成功率や生残率の低下、個体数の減少をもたらす恐れがあると考えられています（風間 2012；浦・奴賀 2022）。また、これらの影響は、洋上を利用する海鳥類だけでなく、洋上を通過する陸棲の渡り鳥に対しても及びます（風間 2012；浦・奴賀 2022）。舢倉島や七ツ島及び周辺海域は、上述のとおり海鳥や渡り鳥にとって重要な生息域と考えられることから、洋上風力発電施設による生息地放棄、移動の障壁、バードストライク等の悪影響が生じる可能性があります。
- (5) 2025 年 2 月 26 日に策定された輪島市復興まちづくり計画（輪島市 2025）においては、基本構想として「地域の伝統文化や自然景観等観光資源の再興」が盛り込まれており、その要素として世界農業遺産や里山里海の風景が重要とされています。石川県創造的復興プラン（石川県 2024）においても、「能登らしさ」として「壮大な自然が織りなす類稀な絶景と豊かな生命」を掲げており、「能登の最大の魅力ともいえる壮大な自然環境や農山漁村の原風景」を「未来へと継承すべきかけがえのない財産」と位置付けるとともに、「2030 年までに陸域と海域の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする国際目標『30 by 30』の実現」に貢献することを目標としています。能登では 2026 年に人工飼育されたトキが放鳥されることが決定しましたが、環境省により「トキが野生復帰するに足るだけの自然的・社会的環境と地域体制が着実に整備されている」ことが認められています（環境省 2025 年 2 月 14 日報道発表資料「石川県能登地域におけるトキの放鳥方針決定について」）。能登の里山里海は、2011 年に日本で初めて世界農業遺産に認定された地域であり、陸と海の資源を持続的にかつ適切に利用することによって、自然環境や生物多様性が保全され、伝統文化とともに受け継がれてきたことが高く評価されています（UNU-IAS OUIK 2016）。舢倉島、七ツ島及びその周辺海域を生息域とする鳥類（海鳥や渡り鳥）は、能登の魅力を特徴づける自然環境の重要な構成要素の一つであるため、創造的復興や世界農業遺産

の趣旨に則り、その保全に十分な配慮が必要です。

- (6) さらに、2023 年 4 月に策定された石川県離島振興計画（石川県 2023）においては、野鳥を含む自然資源を舩倉島の魅力として活かし、観光や交流を促進する方針が定められています。舩倉島の人口は、漁獲時期のピーク時で漁業関係者を主体として 200 人程度であるのに対し、定期航路により年間 7 千人から 9 千人の方が島を訪れます（平成 27 年から令和元年の推移：石川県 2023）。輪島市外からの来島者の多くがバードウォッチングや磯釣りを目的にしているとされます（石川県 2023）。また、「海の島」「離島の自然」「渡り鳥の交差点」といった島の魅力が国外にも知られており、外国人バードウォッチャーからも「舩倉島は最高の場所」と称賛されるなど、国際的にも非常に重要な鳥類の観察地です（北國新聞社 2010）。舩倉島の観光振興のために、非常に大きな魅力である鳥類の保全には十分な配慮が必要です。

以上

引用文献

- 北國新聞社（2010）舩倉島・セツ島からの手紙 舩倉島・セツ島自然環境調査団 編．北國新聞社，金沢．
- 石川県（1998）石川の自然環境シリーズ 石川県の鳥類．石川県，金沢．
- 石川県（2020）石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020 動物編．石川県，金沢．
- 石川県（2023）石川県離島振興計画（令和 5 年度～令和 14 年度）．石川県，金沢．
- 石川県（2024）石川県創造的復興プラン 能登が示す，ふるさとの未来．石川県，金沢．
- 風間健太郎（2012）洋上風力発電が海洋生態系におよぼす影響（特集 風力発電が生態系に与える影響を考える）．保全生態学研究 17，107-122．
- 日本鳥学会（2024）日本鳥類目録改訂第 8 版．日本鳥学会，東京．
- UNU-IAS OUIK（2016）イヴォーン・ユー、永井三岐子 編 能登の里海ムーブメント-海と暮らす知恵を伝えていく-．国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット，金沢．
- 浦達也・奴賀俊光（2022）洋上風力発電が鳥類に与える影響および風力発電と鳥類の累積的環境影響評価に関するウェビナーの開催と資料集発行．自然保護助成基金助成成果報告書 31，115-121．
- 輪島市（2025）輪島市復興まちづくり計画．輪島市，輪島．